

平成28年度  
(2016年度)

## 事業報告書

平成28年(2016年)4月1日から  
平成29年(2017年)3月31日まで

平成29年5月26日

学校法人 吉田学園

## 目 次

### I. 法人の概要

- |                |     |
|----------------|-----|
| 1. 法人の名称および所在地 | P 1 |
| 2. 役員の概要       | P 1 |
| 3. 評議員の概要      | P 1 |
| 4. 教職員数        | P 2 |
| 5. 設置する学校      | P 2 |

### II. 事業の概要

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| 1. 札幌保健医療大学の事業計画とその進捗状況   | P 3  |
| 2. 中期計画最終年度工程の実行計画とその進捗状況 | P 13 |

### III. 財務の概要

- |          |      |
|----------|------|
| 1. 決算の概要 | P 18 |
| 2. 経年比較  | P 21 |
| 3. 財務分析  | P 23 |

# I. 法人の概要

## 1. 法人の名称および所在地

法人の名称	学校法人 吉田学園
事務所の所在地	札幌市中央区南3条西1丁目15番地

## 2. 役員概要 (平成29年5月26日現在)

[定数] 理事7~8人、監事2人

職名	役職	氏名	常勤・非常勤の別	選任区分
理事	理事長	吉田 松雄	常勤	2号
理事	副理事長	吉田 祐樹	常勤	3号
理事	学長	稲葉 佳江	常勤	1号
理事	学園長	高 悦夫	常勤	1号
理事		吉田 正幸	常勤	2号
理事		高橋 隆司	非常勤	3号
理事		富山 睦浩	非常勤	3号
理事		吉川 貴盛	非常勤	3号
監事		太田 三夫	非常勤	
監事		竹内 俊英	非常勤	

※理事の選任区分 (定数)

1号：学長および専門学校の校長のうちから理事会において選任した者 (2人)

2号：評議員のうち評議員会において選任した者 (1~2人)

3号：学識経験者のうちから理事会において選任した者 (4人)

## 3. 評議員概要 (平成29年5月26日現在)

[定数] 15~17人

氏名	常勤・非常勤の別	選任区分
稲葉 佳江	常勤	1号
上野 正志	非常勤	3号
久保 則雄	常勤	1号
栗原 隼三	非常勤	3号
坂野 路彦	非常勤	2号
佐野 俊春	常勤	3号
鈴木 隆	常勤	1号
高橋 隆司	非常勤	3号
藤堂 省	非常勤	3号
富山 睦浩	非常勤	3号
原 孝男	非常勤	3号
村田 晃啓	非常勤	3号
山中 博詞	非常勤	2号
吉川 貴盛	非常勤	3号
吉田 浩晃	常勤	1号
吉田 正幸	常勤	1号
吉田 松雄	常勤	3号

※評議員の選任区分（定数）

- 1号：法人の職員で理事会において推薦された者のうちから、評議員会において選任した者（3～5人）
- 2号：法人の設置する学校を卒業生した、年齢25歳以上の者のうちから理事会において選任した者（2人）
- 3号：学識経験者のうちから理事会において選任した者（10人）

4. 教職員数（平成28年5月1日現在）

正職員		有期契約職員		
大学教育職員	専門学校他	大学任期制 教育職員	嘱託職員	パート職員
27人	157人	6人	57人	28人

5. 設置する学校（平成28年4月現在）

[大学]

学校の名称	学部	学科	修業年限	総定員数	学生数※1
札幌保健医療大学	看護学部	看護学科	4年	400人	414人

[専門学校]

学校の名称	分野	学科数	修業年限	総定員数	学生数 ※1
吉田学園情報ビジネス専門学校	工業 文化・教養	6学科	1～3年	470人	247人
専門学校北海道体育大学校	文化・教養	3学科	2～4年	390人	259人
専門学校北海道福祉大学校	教育・ 社会福祉	5学科	1, 2, 4年	429人	235人
専門学校北海道リハビリテーション大学校	医療	3学科	2, 4年	440人	352人
専門学校北海道自動車整備大学校	工業	2学科	2, 4年	250人	204人
吉田学園動物看護専門学校	文化・教養	3学科	1, 2年	156人	60人
吉田学園医療歯科専門学校	医療 商業実務	7学科	2, 3年	910人	648人

※1 学生数：平成28年5月1日現在

## II. 事業の概要

### 1. 札幌保健医療大学の事業計画とその進捗状況

開学4年目を迎える大学として設置計画を確実に履行する。

当年度においては、平成25年度から毎年度実施している自己点検・評価結果に基づき、引き続き教育理念「人間力教育を根幹とした医療人の育成」を具現化するために、「カリキュラムの実施」、「学生支援」、「アドミッションポリシーに適した入学者確保」の充実、さらに大学が社会から求められている教育職員の「教育研究力の向上」、「地域連携と貢献」の強化を図り、大学としての「管理運営」等それぞれの観点から、札幌保健医療大学存立の社会的意義を明確にする年度とする。年度の評価は、自ら自己点検・評価を行い、より質の高い教育を目標に改善を図る。

なお、平成29年4月の開設を目指し、文部科学省および厚生労働省に栄養学科の設置申請を行う。また、平成27年度の文部科学省の設置計画履行状況等調査で指摘された是正意見および改善意見には、早急かつ真摯に対応する。

#### (1) カリキュラムの実施

①教育課程においては、教育理念の実現を目標に設置計画のカリキュラムを実施する。

##### <進捗状況>

設置計画どおりにカリキュラムを実施しました。是正意見の要因となっていた主要科目においての教授または准教授の配置は、准教授を配置することができました。

②当年度より4年生の実習・演習科目が開講することから、4年生の実習・演習科目に関する学習環境（実習施設との関係作り、実習・演習での学習教材や指導体制等）を整備する。

##### <進捗状況>

臨地実習等が開始されて2年目を迎え、順調に実習・演習に取り組みました。今後は、専任教員と非常勤実習指導員等との連携強化が求められます。

③平成26年度に立ち上げたカリキュラム検討会（学科内WG）をカリキュラム専門委員会として教務委員会の下部に常設する。カリキュラム専門委員会は継続して当年度の開講する「看護課題研究」、「看護総合実習」、「実践統合演習」の準備にあたる。さらに、現行カリキュラムにおける科目間の整合性および順序性を踏まえた運営ができるように具体的な検討を進める。

##### <進捗状況>

「看護課題研究」、「看護総合実習」、「実践統合演習」については、カリキュラム専門委員会から示されていた科目間の順序性や到達度の具体的な方法に基づいて展開しました。しかし、現行カリキュラムの大幅な見直しについては、実習期間および開講年次等の優先検討課題があり、継続して検討することとしました。

④学生による授業評価は教職員や学生が閲覧し易い公表方法の工夫（例：学内LAN等）と学

生への周知徹底を図るとともに、評価項目等に関する見直しを行う。また、FD委員会と教務委員会との連携等によって、必要に応じて科目の改善あるいは非常勤講師の再検討等につながるシステムを構築する。

<進捗状況>

学生に対する授業評価の公表は掲示および図書館での閲覧によって行い、学生への周知徹底を図りました。なお、FD委員会と教務委員会との連携等による非常勤講師の再検討までは至りませんでした。

(2) 学生支援

- ①本学の教育理念である「人間力教育」の実現のため、学業と生活の支援および学習環境の更なる充実を進める。

<進捗状況>

文部科学省のAC実地調査等での学生へのインタビュー調査内容および学生満足度調査結果を教授会に報告し、大学全体として情報共有しました。

- ②本学の教育理念の具現化・強化を図ることを目的に、全学年対象に体育大会・大学祭を、看護職教育への本格的な出発点となる2年生のグローアップセレモニーを大学行事として実施する。

<進捗状況>

ア 他者と共存することを意識し、学生個々が主体的に参加し、垣根を越えた交流を行い、協調性を養うことを目的に、平成28年5月13日に体育大会を開催しました。当日は、玉入れ、障害物競争、綱引き、チーム対抗リレーが行われ、学年を越えて交流を行いました。

イ 本学の教育理念である「人間力のある医療人」を目指し、学業と課外活動で自分たちが成長するために一致団結して物事を行うことを目的に、平成28年10月8日～9日に「仕合せ～人と人とのつながり～」をテーマに大学祭を開催しました。軽音楽サークルのライブ、模擬店、お楽しみ抽選会、サークル代表者対抗戦、看護体験演習、絵本の読み聞かせ等の催しが行われました。

ウ 4年間の学習の節目として2年生を対象に、学生ひとり一人がこれまでの学習の振り返りと看護職への学びの意思を確認する目的で、看護基礎実習Ⅱ開始前の平成28年11月19日にグローアップセレモニーを実施しました。当日は、川嶋みどり氏（日本赤十字看護大学名誉教授、健和会臨床看護学研究所所長）を講師として招き、「看護の道を選び学び続けるあなたに改めて看護の魅力を」をテーマに特別講演会を開催しました。

- ③キャリア開発委員会の年間国家試験・就職支援スケジュールをもとに、国家試験合格率・就職者100%を目指す。

<進捗状況>

看護師国家試験は97名が受験し94名が合格となり、合格率は96.9%（全国新卒平均94.3%）、

保健師国家試験は16名が受験し全員が合格となり、合格率100%（全国新卒平均94.5%）という結果でした。また、就職率は就職希望者96名全員の就職が決定し、100%でした。

ア 専門基礎・専門科目について、補講を実施する。

<進捗状況>

専門基礎科目については形態機能・疾病・保健統計で18コマ、専門科目については看護8領域（統合実践を含む）で28コマの補講を行いました。また、10月の模試の結果から、強化が必要な35名に対して、41コマの追加補講を行いました。

イ 業者による補講・模試を実施する。

<進捗状況>

さわ研究所において7月・11月に97名を対象に、20コマの補講を行いました。

模試については、看護師国家試験対策で6回、保健師国家試験対策で3回実施しました。

ウ 看護課題研究担当者は、研究指導と併せて学生の国家試験対策の学習支援を行う。

<進捗状況>

本学の教員24名が学生をそれぞれ4～8名を担当し、学習計画の進捗状況・模試結果について、随時面談と学習指導を行いました。

エ 2、3年生に対する国家試験対策を強化する。

<進捗状況>

2年生については国家試験対策のガイダンス、低学年模試の実施および各領域別実習前課題・次年度の学習計画表を作成し実施しました。3年生については国家試験対策のガイダンス、DVD視聴学習（14コマ）、2回の模試の実施および実習前課題・次年度の学習計画表を作成しました。

オ 就職担当職員を配置し、フルタイムで就職指導業務の強化を図る。

<進捗状況>

フルタイムの就職担当の嘱託職員1名を配置し、専任職員1名との2名体制で教員の就職指導業務をサポートしました。

④本学の特徴の一つである「きめ細やかな教育指導と生活支援」を実施するため、学年担任を中心に学生動向を把握し、全教職員で教育指導に当たる。

<進捗状況>

1年生については、前期および後期に個別面談を行い、大学生活への適応状況を把握するとともに、学習や進路に関する助言・指導を行いました。

2年生については、4～5月の個別面接では1年生の成績を参考に1年目の生活・学習状況を振り返り、2年生の学習への取組に対する助言・指導を行いました。また、10～11月の個別面接では模試の結果も含めて、学習への取組に対する助言・指導を行いました。

3年生については、前期（2年生後期定期試験結果発表後の3～5月）および後期（領域別実

習の結果が明らかになった後)に個別面談を行い、学業、アルバイト、奨学金、就職・進学等に対する助言・指導を行いました。

各学年とも学年担任会議を実施し、学生の動向把握、情報共有を図りました。

- ⑤学生の経済的困窮の相談や様々な奨学金制度の適切な活用方法への助言指導を、積極的に行う。さらに、新たに本学独自の奨学金制度の創設に向けて検討する。

<進捗状況>

学年担任および学生支援担当職員が学生の経済的困窮の相談を受け、延納の手続きや学生支援機構の奨学金を中心とした様々な奨学金の受給についての情報提供を行いました。また、本学独自の経済的困窮学生救済のための給付型奨学金の骨子を検討しました。

- ⑥大学と保護者が連携し、学生の成長、本学での成業を目指すために、札幌保健医療大学後援会主催のもとに、1、3年生の保護者を対象に懇談会を継続して実施する。

<進捗状況>

平成28年11月19日のグローアップセレモニー終了後に保護者懇談会を実施しました。保護者の出席者は60組76名で、学長・後援会長の挨拶の後、学科報告、通学支援バスの当分の間の運行の説明、担当教員との個別面談、施設見学、就職および奨学金の相談を行いました。

- ⑦平成26・27年度に実施した学生満足度調査の結果を集計・分析し、平成28年度に向けて、教室、演習室等校舎全体の施設構想を計画のうえ、よりよい学習環境の整備を目指す。

<進捗状況>

次のとおりの校舎の移転、改修工事により学生の学習環境は大幅に整備されました。

ア 学生から狭隘であると不満がでていた各看護実習室を旧専門学校北海道自動車整備大学校校舎に移転し、ゆとりのある実習室へ大幅な改修工事を実施しました。これにより、看護実習室が4室になり、さらに教材室も併設され、北海道内看護系大学の中でも有数の施設となりました。

イ 栄養学科新設に伴い、図書館の閲覧室等を拡大する改修工事（閲覧席を62席から108席に増席）を実施しました。また、将来のことを考慮し閉架式の書庫の設置、DVD等を視聴しグループで学習ができるグループ閲覧室を新設しました。

ウ 教員から要望のあった演習室の増加については、2号館から事務局等管理部門が1号館に移動したため、空いた部屋を演習室や自習室に転用しました。

エ 栄養学科新設に伴い、3号館および4号館の小教室等を改修し、講義室を新設しました。

オ 教室等の移動によりラウンジ等学生が自由に使用できるスペースが増加しました。

カ 学生食堂からの業者の撤退および学生から要望の強かった売店の新設を総合的に考慮し、コンビニエンスストアの出店を各社に依頼しました。その結果、(株)セコマが出店することになり、改修工事が行われました。

- ⑧学生の主体的な学習を推進するために、図書館の開館時間の延長、実習室の時間外使用に關す



る便宜性について検討し、改善を図る。

<進捗状況>

4月より学生の休業期間を除き、通学バスで早い時間に登校する学生のために、開館時間を30分早め、午前8時30分としました。また、10月～翌年2月の間、国家試験対策として、土曜日の開館時間を2時間30分延長し、午後5時30分としました。実習室の時間外使用については、可能な限り柔軟な対応を行い、学生の便宜を図りました。

- ⑨平成28年度末の1期生の卒業に向けて、同窓会の立ち上げの準備を行う。さらに、卒業生のキャリア支援活動を検討する。

<進捗状況>

学生委員会が中心となり、4年生の代表者と同窓会会則、同窓会運営の案を作成しました。3月の卒業証書・学位記授与式終了後、同窓会発足式が開催され、同窓会会則が承認され、同窓会役員が選出されました。また、卒業生へのキャリア支援活動については、本学のホームページ等で活動内容をお知らせすることとしました。

- ⑩海外の医療・看護事情および異文化理解を深めるため、短期海外研修プログラムを企画・検討する。

<進捗状況>

平成29年2月20日～2月26日および平成29年3月13日～3月19日の2班に分けて、それぞれ学生が14名、引率者が1名参加し、カナダ短期海外研修が行われました。

研修内容は、ディケア（保育園）および日系人の老人施設でのボランティア活動、医療機関の視察、医療に関する英会話講義等でした。今後も学生の安全確保を第一に更なる教育効果を目指し、研修先・研修内容、および滞在中の安全確保に関する対策を検討していくこととしました。

(3) アドミッションポリシーに適した入学者の確保

- ①アドミッションポリシーに適した入学者の確保を目的に、本学の知名度を高める広報および教職員による広報活動を積極的に推進する。

<進捗状況>

ア 春季159校、秋季1回目96校、秋季2回目72校および予備校訪問を実施、本学看護学科・栄養学科への志願を依頼するとともに訪問校等の受験の現状等についての情報収集を行いました。

イ 業者が開催する進学相談会には62会場、高校主催の校内ガイダンスには8会場に参加し、相談者の疑問に回答するとともに、本学の特徴をアピールしました。

ウ 高校から依頼を受け、12校に出前講義を実施しました。また、6校からの校内見学依頼があり、対応しました。

エ 5回のオープンキャンパスを実施し、参加者は延べ594名（保護者91名を含む）でした。

昨年度と比較すると参加者は30名の増となりました。

オ 広報媒体としては、新聞広告（特に北海道新聞テレビ欄に掲出）、地下鉄車両・中央バス・函館市電および帯広市内バスのステッカー広告、情報誌への掲載、WEBの活用等を実施しました。

②推薦入学者の「確かな学力」を担保するために入学前教育の充実を図る。さらに、入学後の補習教育について見直し、改善への検討を行う。

<進捗状況>

推薦入学試験（公募制、指定校制）で入学する生徒を対象に、次の科目について、業者から提供されるテキストを用い、DVDによる授業を視聴した後に業者が確認テストを行い、さらに回答に対する添削指導を行う入学前教育を実施しました。

- ・看護学科入学者：「アカデミックライティング」、「基礎生物」、「基礎化学」の科目
- ・栄養学科入学者：「ベーシック理科」、「栄養系総合講座」の科目

さらに、入学後、入学者全員を対象に、生物、化学のプレースメントテストを実施し、平均点に達しない学生に対して8回の補習教育を行いました。

③本学のアドミッションポリシーに適した入学者を確保するために推薦入試定員数や入試方法を見直す。

<進捗状況>

ア 配点が多く、採点がし難いとの要望から推薦入学試験の小論文と面接の配点を変更しました。小論文は150点から60点、面接は100点から40点としました。

イ 看護学科では大学入試センター利用入学試験後期の志願者が少ないとの理由から、廃止しました。ただし、栄養学科については実施しました。

ウ 一般入学試験前期および大学入試センター利用入学試験の選択科目から、選択者が極端に少ない「公民」を削除しました。

④4年間の経過することに伴い、入学後の学生の学習状況と入試実施方法等との関連について評価を行い、受験科目等を含む入試実施方法に関する課題を明確にする。

<進捗状況>

今年度は具体的に実施できませんでした。

(4) 教育研究力の向上

①大学教育職員の責務は教育と研究であることを再認識し、自己の教育研究力の向上を目指す。

<進捗状況>

教育については看護学科の完成年度を迎え、文部科学省に提出した申請書の内容に沿って行われました。しかし、教員間での評価基準の齟齬、各領域間での連携に問題が残る結果となりました。また、研究面については各教員が教育・校務を行いながら取り組みましたが、十分な成果が得られない状況となりました。

②助手・助教の大学教育・看護教育に関する知識・理解の向上を図るとともに、教育業務を指導し、育成を図る。

<進捗状況>

学長より、助手・助教および新任教員に対して数回にわたり大学教育・看護教育に関する講義を行いました。加えて、今後大学教員としての基本となる研究活動についても講義を行いました。

③教員の研究において、学術奨励研究費制度の運用方法について見直しを行う。

<進捗状況>

平成27年度に柔軟な運用方法に対応できる見直しを行いました。その結果、学術奨励研究費助成申請については、学術奨励研究が3件（すべて新規）、奨励研修費が1件（新規）、教育促進補助が5件あり、審査の結果、承認されました。

④倫理的態度を基盤とした研究力の向上を目指し研修会を企画する。そのうえで、外部資金獲得に向けた研究助成費申請のための情報提供を積極的に行う。

<進捗状況>

今年度は、科学研究費申請予定者のみの説明会を実施しました。来年度以降は積極的な外部資金獲得を目指し、全教員を対象に実施することを検討しています。

(5) 地域連携と貢献

①地域との連携・交流を積極的に図ることを目指し、看護学分野を中心とした大学の知的財産を社会に還元し、貢献するために、本学主催の公開講座あるいは研修会を企画する。

<進捗状況>

ア 5者連携事業に基づく活動

- ・平成28年10月23日に開催された「ひがしく健康・スポーツまつり2016」に委員4名、学生24名が参加し、ロコモ度チェックを実施しました。
- ・平成29年2月22日に開催された「第14回健康づくりフェスティバル」に委員3名、学生14名が参加し、学生が主体となり高齢者と認知機能トレーニングに焦点をあて、「脳活！？～楽しく継続的に脳を活性化～」をテーマに参加者と対話形式でプレゼンテーションを行いました。

イ 5者連携事業以外の活動

平成28年7月23日に開催された「中沼西夏祭り」に委員2名と学生9名が参加し、ロコモ度チェックを実施しました。

ウ 本学と地域との連携事業を掲載した「WILLちいき通信 第3号」を発行し、近隣地域町内会に配付しました。

エ 本学主催の公開講座を「共に生きる」をメインテーマとして2回開催しました。

- ・平成28年5月14日に学部長の小林清一教授を講師として、「アレルギーと上手につきあう

には？」をテーマに札幌市東区民センター視聴覚室で実施しました。参加者は54名。

・平成28年10月8日に久保ちづる氏（栄養学科教授予定者）を講師として、「サルコペニアを予防・改善するために～栄養とのかかわり～」をテーマに本学で実施しました。参加者40名。

オ 地域連携の在り方や課題についての情報収集を目的として、平成28年11月6日に京都で開催された大学・地域連携サミットに参加しました。

カ 本学の知名度アップ、ボランティア参加学生の明確化・差別化のために、汎用できるブルゾンジャンパーを作成しました。ロゴデザインは、学生に公募して作成しました。

②札幌市東区および同区の高等教育機関との連携協定に基づいた関連事業に積極的に参画し、札幌市の街づくりや市民の健康の維持・増進のための活動を積極的に行う。

<進捗状況>

(5) ①ア、イと同様です。

③本学が掲げている「質の高い看護職の輩出による保健・医療・福祉への貢献」および「北海道内における看護師不足解消への貢献」を実現するための中・長期的展望として、卒業後のキャリア支援体制の構築や北海道内の看護職不足解消に貢献するための行政・病院等との連携による卒業生の地方定着に向けた支援体制の可能性と方略を探求するための情報収集を行う。

<進捗状況>

具体的な取組はできませんでした。

(6) 管理運営

①本学が掲げている「看護の専門職業人の育成」を具体化するために、より一層の教育機能の充実を図る。

<進捗状況>

学内での講義・演習で得た知識を臨地で実習することにより、始めて本学が掲げる「看護の専門職業人の育成」を具体化することができました。臨地実習現場では、実習を行う各病棟に大学からの担当教員（非常勤実習指導員を含む）を配置する体制となり、人材の確保、人件費の拡大、専任教員と非常勤実習指導員との連携不足が顕著となりました。特に、専任教員と非常勤実習指導員との連携不足が文部科学省のAC実地調査でも改善意見として指摘されました。改善に向けて、臨地実習の共通要項等を作成し、連携の強化に努めました。

②学校教育法改正に基づく学長のガバナンスのもと、大学の管理運営体制を整えるとともに「教職員が協働する」運営意識の強化に努める。

<進捗状況>

学校教育法が改正され、本学の規則・規程等も改正され、学長のガバナンスのもとに、管理運営が執行されるということの認識はできました。今後は、本来の教職員協働の基本であ

るお互いが尊重し助け合うという意識の醸成を図る必要性があります。

- ③学校教育法改正による管理運営体制整備の一環として、学長の業務執行状況に関する評価を実施する。

<進捗状況>

学長業務の執行状況に関する評価に係る学外委員2名（昨年度同様の委員）により、平成29年3月6日に実地調査を実施しました。結果は、学長業務は学校教育法の趣旨に基づいて執行されているという評価でしたが、教員組織の適正化、教育職員の採用等の規程での問題点が指摘されました。

- ④教員の選考委員会を立ち上げ、専門教育分野の欠員補充等を行い、教員組織体制の確立を図る。

<進捗状況>

文部科学省のAC実地調査で指摘されている退職教員の補充、主要科目の教授・准教授の未担当について、対応をしました。その結果、専門教育分野で8名（教授1名、准教授2名、助教5名）を採用しました。また、専門教育分野で5名（准教授から教授2名、講師から准教授1名、助手から助教2名）の昇任となりました。昇任者が承認されたことにより、主要科目の教授・准教授の未担当が改善されました。しかし、未だ基礎看護学・成人看護学・精神看護学分野での教員未充足が続いていることから、早期に採用活動に入りたいと考えています。さらに、栄養学科の教員19名（教授8名、准教授2名、講師3名、助教1名、助手5名）も新規採用しました。

- ⑤学長の任期が最終年度を迎えることから、学長選考会議を立ち上げ、次期学長選考を実施する。

<進捗状況>

学長の任期満了に伴い、第1回学長選考会議が平成28年8月26日に開催され、委員5名（理事長、法人から選出された理事2名、大学から選出された教授2名）で、議長の選出、学長候補者の推薦方法・推薦書類・推薦受付開始と締切が決定しました。第2回学長選考会議は平成28年10月21日に開催され、学長候補者の推薦結果報告および学長候補者の公示期間を決定しました。第3回学長選考会議は平成28年11月17日に開催され、学長候補者として現学長を選出し、理事会に推薦することが決定しました。理事会は平成28年12月5日に開催され、現学長を次期学長として承認しました。

- ⑥教育職員の自己向上を目的に、成果および実績等に関する教員評価システムを構築する。

<進捗状況>

今年度より、教育職員自身の1年間の自己点検・評価の観点から、教員教育研究等業績評価を実施しました。自己評価は教育40点、研究30点、管理運営・社会貢献30点の100点満点で行い、自己向上につなげることを目的としています。また、今後実施される大学認証評価では、

教育の質の担保で教員評価は重要な評価項目となっています。

- ⑦「敷地内禁煙」について教職員を含め再度確認することで、「健全な学生生活の留意点」の指導・支援を徹底する。

<進捗状況>

健康の維持増進、疾病の予防を教育している大学として、学生には喫煙をしないことを指導しました。また、喫煙している学生には、禁煙を進めると同時に大学敷地内の禁煙を徹底するようガイダンス等で指導しました。さらに、教職員にも強く禁煙を呼び掛けました。

- ⑧大学運営の要となる自己点検・評価の共通認識を図るとともに、自己点検・評価報告書を作成し、ホームページに公表する。

<進捗状況>

平成26年度より、本学のホームページの情報公開の公表項目として掲載しています。現在の自己点検報告書は各種委員会の自己点検が中心に行われていますが、今後は大学認証評価項目に沿った実施を検討しています。

- ⑨栄養学科の設置に伴う校舎の新築、看護実習室の改修および設備等の整備計画を計画どおり実施する。

<進捗状況>

平成28年度に次のとおり新築・改修工事を実施しました。

#### ア 栄養学科棟校舎新築

- ・3階建の約3,150㎡の校舎を5号館として新築しました。
- ・1階には給食経営管理主調理室、実習食堂、下調理室、検収室、前室、ラウンジ、研究室6室、共同研究室、2階には理化学実験室、生理学実験室、調理実習室、臨床栄養実習室、栄養教育実習室、3階には講義室、演習室、研究室13室が配置されています。

#### イ 1号館の改修工事

- ・図書館の閲覧室等を拡大する改修工事（閲覧席を62席から108席に増席）、閉架式の図書館書庫、DVD等を視聴しグループで学習ができるグループ閲覧室を新設しました。
- ・男子および女子トイレの和便器を洋便器に改修しました。

#### ウ 2号館（旧専門学校北海道自動車整備大学校校舎）の改修工事

- ・1階には会議室、学生が自由に使用できる情報処理室、実習室、2階には看護実習室（基礎・成人）、教材室、3階には看護実習室（小児・母性）、看護実習室（高齢者）、教材室を配置する改修工事を行いました。

#### エ 3号館の改修工事

- ・1階の学生食堂にセイコーマートが出店し、(株)セコマが改修工事を行いました。
- ・2階には1号館にあった男子ロッカー室を移設、3階には学生厚生室を講義室に改修しました。

#### オ 4号館の改修工事

・1階には事務室、健康管理室、非常勤講師室、キャリア支援室を移設、2階は従来の看護実習室（基礎・成人・高齢者）を講義室・看護学科の女子ロッカー室に改修、看護実習室（小児・母性）を栄養学科の女子ロッカー室に改修、地域在宅実習室の拡張、3階は2つの小教室を1つの講義室にする改修工事を行いました。

⑩看護学科の完成年度および栄養学科の設置に伴い、新たな事務局体制を検討する。

#### <進捗状況>

事務第一課、事務第二課の2課体制から、より課の業務が明確となる総務課、学務課、進路支援課の3課体制に移行しました。

## 2. 中期計画最終年度工程の実行計画とその進捗状況

平成28年度の学園創立60周年に向け、「在籍学生数3,000名」を目標に掲げて平成25年度に策定した中期計画（3年）の最終年度を迎えることから、計画の達成状況について結果検証を行い、新中期計画の策定を行っていく計画である。

「在籍学生数3,000名」の実現を目標に掲げて進めてきた中期計画については、残念ながら大幅な未達となる見通しであるが、18歳人口の減少という厳しい環境要因をしっかりと受け止めて、大学においては完成年度を待たずして学科新設準備を進めることを決定し、専門学校グループにおいては、学科新設や学校施設の有効活用を検討しながら、定員変更など学生確保に向けた諸施策を実行してきた経緯にあり、専門学校グループ全体として、学生数は保たれている。

中期計画最終年度は新計画に引き継ぐ準備年度と位置付け、学生数確保に向けて設備の維持向上を図り、新設学科を始め学園全体の定員充足率を向上すべく、募集広報体制の整備・強化など単年度の行動計画等を着実に進めていくものである。

### (1) 主な施設整備計画

#### ①札幌保健医療大学

栄養学科新設計画に伴い、校舎を新築するとともに既存校舎の大幅改修を進める計画である。

工事期間：平成28年4月から平成29年3月を計画。

#### <進捗状況>

上記1. 札幌保健医療大学の事業計画（6）管理運営⑨で記載したとおりです。

#### ②吉田学園情報ビジネス専門学校のエレベーター設備改修工事および床の張替え工事

学生および教職員の安全性向上のため、老朽化してきたエレベーター設備の改修工事を行う。また、床の張替えについては、損傷度合いと衛生面を考慮しつつ複数年かけて計画的に行っていく計画である。

工事期間：平成28年8月を計画。

#### <進捗状況>

吉田学園情報ビジネス専門学校のエレベーター設備の改修工事と床の張替え工事は、平成

28年8月に完了しました。これにより、安全性の向上、より良い教育環境の提供ができました。

平成29年度以降についても継続して床の張替え工事を計画的に実施します。

### ③福祉・リハビリ校舎のロスナイの交換

一昨年、一部のロスナイで空気測定数値の不足が発見されたため、その機器を優先して交換を行った経緯にある。学習環境の維持向上のため、昨年から複数年かけて複数台のロスナイ交換を計画的に行うこととしており、新年度も対応するもの（現状計画では平成29年度で交換完了の予定）。

工事期間：平成28年8月を計画。

#### <進捗状況>

平成27年度から計画的に交換工事を行っています。平成28年度は、平成28年8月にロスナイを20台交換しました。平成29年度において、残りの交換対象となっているロスナイを入れ替えることにより、交換工事は全て終了し、学習環境の向上が図られます。

### ④医療歯科校舎の外壁調査および全館ロスナイ清掃

校舎建築後10年を迎えることから、法令に従った外壁調査を行うとともに、全館ロスナイ清掃を実施して学習環境の維持向上を図る。

工事期間：平成28年7月から8月を計画。

#### <進捗状況>

医療歯科校舎の外壁調査は平成28年7月に完了しました。重大な損傷の報告はありませんが、定期的なメンテナンスは必要であるので、調査完了以降の3年間で外壁のメンテナンスを行うことを計画します。医療歯科校舎のロスナイ清掃については、平成28年8月に実施しました。清掃を実施したことで各教室の快適性（空気清浄・遮音）が回復し、学習環境の向上が図られました。

## (2) 主な活動計画

### ①教育・学生指導体制の強化

教育力向上を目的として、専門学校教育職員研修制度の更なる充実を図るとともに、授業改善や教育・教員の質の向上に向けて公開授業を全専門学校にて行う。また、専門学校各校においては、国家試験の合格率の向上および専門職就職率の向上を図りながら、文部科学大臣認定の職業実践専門課程の着実な運営を行う。

#### <進捗状況>

平成26年度から開始した「専門学校教育研修会」を平成28年8月10日に専門学校グループ各校の校長が中心となり実施しました。第3回目となる平成28年度の研修テーマを「よりよい教授法を目指して」として、基調講演と研究発表を中心としたプログラムで運営しました。

基調講演を北海道立教育研究所企画・研修部主査である泉大吾氏に「学生の学習意欲を高めるための指導の在り方」を演題として講演をいただきました。基調講演後は専門学校グル



ープ各校から、研究発表テーマである「学生の学習意欲を高めるための指導方法」に沿った発表があり、各校の特色のある指導方法を共有し、実践的な内容となりました。

また、公開授業についても専門学校グループ全校で実施することができ、授業改善や教育・教員の質の向上のための検証を進めることができました。

このような取り組みの成果として、文部科学大臣認定の職業実践専門課程の着実な運営を行うための資料も整い、各委員会にて具体的な議論を進めることが可能となりました。

次年度以降も教育・学習指導体制の強化を継続し、その成果を授業改善の向上、国家試験合格率の向上および専門職就職率の向上に繋げるよう取り組みます。

## ②専門学校グループの募集広報体制の整備と強化

広報担当者の受け持つ範囲を見直すとともに、学生募集活動人員の増加を図る。また、2018年問題を見据え、高校新卒者を中心とする募集広報活動に加え、大学卒業者（学士学位取得者）や社会人へと入学者マーケットの拡大を図る。

専門学校北海道福祉大学校の精神保健福祉学科および平成28年4月開設の専門学校北海道リハビリテーション大学校の言語聴覚学科が、大学卒業者（学士学位取得者）を入学資格としており、従来の高校卒業者を入学資格とする学科とは学生募集方法などにおいて異なった広報戦術が必要なことから、広報戦術の見直し・工夫を施し定員充足率の向上を図っていく。

### <進捗状況>

平成28年度より専門学校グループの募集広報体制の見直しを図り、募集活動グループを編成し、グループ管理体制を開始しました。各グループの施策の企画、運営、検証作業を進めています。特に、大学卒業者を対象とした募集広報は、大学訪問、大学における説明会を複数回実施し今後も継続の方向で活動を続けます。

また、平成29年度に向けて留学生の受入体制の整備を進め、吉田学園情報ビジネス専門学校に「ビジネスキャリア学科」を新設し募集を開始しました。あわせて、専門課程における留学生受入も進め、専門学校グループ全体で13名の留学生を受け入れることになりました。

## ③専門学校北海道福祉大学校の介護福祉学科および保育未来学科の入学者募集強化

高齢化率が26%超の超高齢社会となり、介護人材の確保は国家的課題でもあり、介護福祉士の養成施設を運営する学校として、まずは定員充足を図った上で有為な介護人材の輩出が使命であると考えている。そのために、介護施設と連携した奨学金貸付制度の充実を図りながら、それを広報活動に活かして定員充足率の向上に繋げていく。

また、一億総活躍社会の実現に対しては、子育て支援が重要課題の一つに挙げられており、保育士の養成施設を運営する学校として、保育士人材の輩出は重要な使命である。吉田学園グループの社会福祉法人では保育園3園を札幌市内で運営しており、教育環境の優位性や魅力を伝えるべく広報活動に注力して定員充足率の向上に繋げていく。

### <進捗状況>

介護福祉学科では、介護施設と連携した奨学金貸付制度の拡充を図るため、制度を制定している施設の確認および制度を持たない施設には訪問し、制度の理解と制度の制定の協力を依頼しました。職員確保には各施設も苦慮している部分があり、協力関係が築ける面もありました。

保育未来学科では、社会福祉法人吉田学園福祉会の保育園3園の協力を得て、保育の現場と学校の教育内容を連動させたオープンキャンパスを実施しました。

今後も、介護・保育の現場と入学希望者のミスマッチを解消すべく入学希望者の動向を見極め定員充足率の向上に努めます。

#### ④学校事務の効率化および管理システムの構築

平成27年度には、届出用紙の見直しを図り、「固定資産及び物品管理規程」や「図書管理規程」に基づく管理システムを導入した経緯にあり、各種ルールに従った業務遂行の定着を図りつつ、専門学校グループ全校における事務の標準化・統一化作業を引続き進めていく。

専門学校総合事務局と大通キャンパスの3校を束ねる南3条統括事務部が連携して、専門学校事務の標準化・統一化作業を進め、前年度に実施した内部監査結果を踏まえ専門学校グループの管理運営方法の標準化とともに事務体制の見直しと効率化を図っていく。

##### <進捗状況>

「固定資産及び物品管理規程」や「図書管理規程」に基づく管理システムを導入し各種ルールに従った業務遂行を開始しましたが、運用を開始してからの見直しなどもあり、完全な定着化までは至りませんでした。より効率的な事務スキームを確立し、簡便な運用ができるよう今後も継続して業務の定着化を図ります。

また、専門学校事務会議を活用し、専門学校事務の標準化・統一化に向けた議論を進め、改善できる業務内容から見直しを行いました。あわせて各校における事務スキームの見直しも進め、より確実に効率的な事務体制の再構築を図っていきます。

#### ⑤創立60周年記念祝賀会の開催

創立60周年記念祝賀会を教職員並びに教育・取引関係者を招いて、平成28年9月15日に開催する。

##### <進捗状況>

当初の予定通り、創立60周年記念祝賀会を平成28年9月15日、札幌グランドホテルにて開催しました。全国各地から500名近い方々にご出席をいただき、盛会のうちに終了しました。

#### (3) 内部監査業務の充実

平成27年度は、専門学校の自己点検・評価のうち、組織運営面に焦点をあて吉田学園情報ビジネス専門学校の業務運営、稟議決裁、指示命令・報告状況等について監査を実施した。

平成28年度においても、引き続き組織運営面に焦点をあてた内部監査を専門学校グループ

で実施して法令遵守や業務改善に資するよう取組む計画である。

#### <進捗状況>

平成28年度の事業計画に基づき、専門学校各校の自己点検・評価が適正に行われているかを検証するため、自己点検・評価の項目のうち、組織運営面に焦点をあて「専門学校北海道体育大学校」を対象校として、次の項目に関して内部監査を実施しました。

- ・ 日常の組織の意思決定（特に決裁）は、稟議規程に則った手続きとなっているか。
- ・ 学内外の諸会議、研修会などは、記録に残し保存（保管）されているか。情報共有を適切に行っているか。

内部監査結果としては、補正を要する指摘事項は軽微なもののみで、既に補正済です。

決裁手続きについては過年度において問題が見られたものの、職業実践専門課程の認定準備を進めた平成26年度から平成27年度にかけて学内の体制整備が図られ、改善途上にあることが確認されました。

また、当局からの臨検予告に対する養成施設の事前監査として、専門学校北海道自動車整備大学校と専門学校北海道リハビリテーション大学校の監査を実施しました。

事前監査で発見した不備事項を補正することで、当局による立入検査や指導調査においては、文書による指導改善の指摘を受けることなく終了しました。

しかし、内部監査や事前監査において浮き彫りとなった課題として、教育課程・シラバス・授業実施時間の乖離、検証機能向上の必要性、専門学校グループとしての事務書式の統一化および事務処理の標準化があり、これらの課題解決に取り組みながら、事務スキルの向上と効率化を図っていきたいと考えております。

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 決算の概要

##### (1) 資金収支計算書（参考資料：P21、P25）

###### ①収入の部

収入の部合計は、予算比 16 百万円減、前年度比 685 百万円減となりました。主な要因は、次の通りです。

学生生徒等納付金収入は、予算比 3 百万円減、前年度比 134 百万円増の 2,936 百万円となりました。平成 28 年 5 月 1 日現在の在籍者数は、札幌保健医療大学では開学 4 年目で前年度比 103 名増加しましたが、専門学校グループ 7 校では前年度比 19 名減少し、法人全体では 84 名増加となりました。

手数料収入、付随事業・収益事業収入、受取利息・配当金収入は、予算比ほぼ同額、寄付金収入・補助金収入・資産売却収入は、予算と同額でした。ただし、専門学校北海道保健看護大学の廃止に伴い補助金の減少があり、補助金収入は前年度比 28 百万円減となりました。

雑収入は、主に私立大学退職金財団交付金収入・その他の雑収入の増加により予算比 4 百万円増、前年度比 17 百万円増の 46 百万円となりました。

借入金等収入は、予算通り 0 円ですが、前年度比 1,000 百万円減となっており、収入の部合計が前年度比 685 百万円減となった最大の要因です。

前受金収入は、主に授業料前受金収入・教育充実費前受金収入の減少により、予算比 41 百万円減、前年度比 1 百万円減の 1,216 百万円となりました。

その他の収入は、主に預り金受入収入・立替金回収収入の増加により予算比 26 百万円増、前年度比 11 百万円増の 1,010 百万円となりました。

収入からの控除項目である資金収入調整勘定は、期末未収入金の増加により△1,250 百万円となりました。

###### ②支出の部

支出の部における予算および前年度との比較における増減の主な要因は、次の通りです。

人件費支出は、退職金支出の増加により予算比 2 百万円増、新設学科の人件費増により前年度比 104 百万円増の 1,669 百万円となりました。予算の補正後における退職者の増加により、支出超過となりましたが、当該事由に伴い、私立大学退職金財団交付金収入も収入超過となりました。

教育研究経費支出は、主に消耗品費支出と報酬委託手数料支出の減少により予算比 17 百万円減ですが、札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科の新設等もあり前年度比は 61 百万円増の 593 百万円となりました。

管理経費支出・借入金等利息支出・資産運用支出は、予算比ほぼ同額、借入金等返済支出は、予算と同額でした。

施設関係支出は、主に建物支出の減少により予算比 4 百万円減ですが、札幌保健医療大学校舎の建設および改修等もあり前年度比 64 百万円増の 951 百万円となりました。

設備関係支出は、主に図書支出・ソフトウェア支出の減少により予算比 3 百万円減ですが、札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科の新設もあり前年度比 64 百万円増の 290 百万円となりました。

その他の支出は、前払金支払支出・預り金支払支出の増加により予算比 17 百万円増ですが、前期末未払金支払支出の減少があり前年度比 32 百万円減の 1,051 百万円となりました。

### ③翌年度繰越支払資金

翌年度繰越支払資金は、予算比 7 百万円減、前年度比 943 百万円減の 2,355 百万円となりました。

## (2) 活動区分資金収支計算書（参考資料：P26）

教育活動による資金収支の差額を示す教育活動資金収支差額は、476 百万円の収入超過となりました。

施設整備等活動による資金収支の差額を示す施設整備等活動資金収支差額は、平成 29 年 4 月に開設した札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科の専用棟となる 5 号館の建設、札幌保健医療大学 1 号館から 4 号館までの改修工事、札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科の開設準備に伴う教育研究用機器備品および図書の購入により、1,227 百万円の支出超過となりました。

その他の活動による資金収支の差額を示すその他の活動資金収支差額は、借入金等返済支出および借入金等利息支出の合計相当額である 191 百万円の支出超過となりました。

教育活動資金収支差額は収入超過となりましたが、自己資金のみで施設関係支出および設備関係支出 1,241 百万円を行った影響で施設整備等活動資金収支差額の支出超過額が教育活動資金収支差額の収入超過額を超えたので、全体として 943 百万円の支出超過となりました。

## (3) 事業活動収支計算書（参考資料：P22、P28）

予算との比較における増減の要因が資金収支計算書と同内容の場合は、省略しています。

### ①教育活動収支

教育活動収支における収入の部合計は、予算比 2 百万円増、前年度比 119 百万円増の 3,091 百万円、支出の部合計は、予算比 12 百万円減、前年度比 187 百万円増の 3,042 百万円となり、教育活動収支差額は、予算比 14 百万円増、前年度比 68 百万円減の 49 百万円となりました。

### ②教育活動外収支

教育活動外収支における収入の部合計、支出の部合計とも予算比ほぼ同額となり、収入の部合計 1 百万円、支出の部合計 23 百万円となり、教育活動外収支差額は、△22 百万円となりました。

### ③経常収支差額

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は、予算比 14 百万円増、前年度比 75 百万円減の 26 百万円となりました。

#### ④特別収支

特別収支における収入の部合計は、現物寄付の増加により予算比 2 百万円増の 11 百万円、支出の部合計は、予算比ほぼ同額でしたが、前年度比は資産処分差額の減少により 20 百万円減となりました。特別収支差額は、予算比 2 百万円増、前年度比 10 百万円増の 10 百万円となりました。

#### ⑤基本金組入前当年度収支差額、当年度収支差額

経常収支差額 26 百万円と特別収支差額 10 百万円により、基本金組入前当年度収支差額は、予算比 16 百万円増、前年度比 64 百万円減の 37 百万円となりました。

基本金組入前当年度収支差額 37 百万円と基本金組入額 1,242 百万円により、当年度収支差額は、△1,205 百万円となりました。

### (4) 貸借対照表 (参考資料：P23、P29)

#### ①資産の部

固定資産 9,073 百万円、流動資産 2,430 百万円、資産の部合計 11,504 百万円となりました。

固定資産は、前年度比 831 百万円増加しました。主な要因は、平成 29 年 4 月に開設した札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科の専用棟となる 5 号館の建設および札幌保健医療大学 1 号館から 4 号館までの改修工事による建物・構築物の増加、並びに、札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科の開設準備に伴う教育研究用機器備品および図書の増加です。

流動資産は、前年度比 954 百万円減少しました。主な要因は、施設設備資金を自己資金で賄ったことによる現金預金の減少および立替金の減少です。

#### ②負債の部

固定負債 1,567 百万円、流動負債 1,685 百万円、負債の部合計 3,253 百万円となりました。

固定負債は、前年度比 251 百万円減少しました。主な要因は、借入返済に伴う長期借入金から短期借入金への振替です。

流動負債は、前年度比 90 百万円増加しました。主な要因は、借入返済額の増加に伴う短期借入金の増加および未払金の増加です。

#### ③純資産の部

基本金 13,277 百万円、繰越収支差額△5,026 百万円、純資産の部合計 8,250 百万円となりました。

基本金は、第 1 号基本金への組入れにより、前年度比 1,242 百万円増加しました。第 4 号基本金は、前年度と同額を計上しています。

繰越収支差額は、前年度比 1,205 百万円減少しました。

## 2. 経年比較

### (1) 資金収支計算書

(単位：百万円)

科目	25年度	26年度	27年度	28年度	前年度比
学生生徒等納付金収入	2,766	2,755	2,801	2,936	+134
手数料収入	23	26	37	34	△3
寄付金収入	0	0	0	0	0
補助金収入	65	86	90	61	△28
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	48	33	24	18	△5
受取利息・配当金収入	5	4	3	1	△2
雑収入	37	30	29	46	+17
借入金等収入	0	0	1,000	0	△1,000
前受金収入	1,289	1,228	1,217	1,216	△1
その他の収入	980	961	998	1,010	+11
資金収入調整勘定	△1,437	△1,319	△1,265	△1,250	+15
前年度繰越支払資金	3,467	3,371	3,122	3,298	+176
収入の部合計	7,246	7,179	8,062	7,376	△685
人件費支出	1,548	1,530	1,565	1,669	+104
教育研究経費支出	443	474	531	593	+61
管理経費支出	321	354	349	372	+23
借入金等利息支出	23	19	18	23	+5
借入金等返済支出	198	196	187	190	+2
施設関係支出	272	497	886	951	+64
設備関係支出	112	47	225	290	+64
資産運用支出	0	0	0	0	0
その他の支出	1,094	1,052	1,084	1,051	△32
資金支出調整勘定	△140	△115	△86	△121	△35
翌年度繰越支払資金	3,371	3,122	3,298	2,355	△943
支出の部合計	7,246	7,179	8,062	7,376	△685

(注1) 百万円未満切捨てのため、合計金額および前年度比は一致しないことがあります。

(注2) 平成25年度および平成26年度の金額は、改正後の学校法人会計基準の様式に組み替えて表示しています。

## (2) 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科 目		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	前年度比	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,766	2,755	2,801	2,936	+134
		手数料	23	26	37	34	△3
		寄付金	0	0	0	0	0
		経常費等補助金	53	78	79	54	△24
		付随事業収入	48	33	24	18	△5
		雑収入	37	30	29	46	+17
		教育活動収入計	2,928	2,924	2,972	3,091	+119
	支出	人件費	1,559	1,546	1,603	1,663	+60
		教育研究経費	771	801	865	965	+99
		管理経費	350	392	385	412	+27
		徴収不能額等	12	0	0	0	0
教育活動支出計		2,694	2,740	2,854	3,042	+187	
教育活動収支差額		234	184	117	49	△68	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	5	4	3	1	△2
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	5	4	3	1	△2
	支出	借入金等利息	23	19	18	23	+5
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	23	19	18	23	+5
教育活動外収支差額		△18	△14	△14	△22	△7	
経常収支差額		215	169	102	26	△75	
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	26	8	20	11	△9
		特別収入計	26	8	20	11	△9
	支出	資産処分差額	4	207	19	0	△19
		その他の特別支出	0	0	1	0	△1
		特別支出計	4	207	21	0	△20
特別収支差額		21	△199	0	10	+10	
基本金組入前当年度収支差額		237	△30	101	37	△64	
基本金組入額		△519	△358	0	△1,242	△1,242	
当年度収支差額		△282	△388	101	△1,205	△1,307	
前年度繰越収支差額		△3,401	△3,683	△4,071	△3,820	+251	
基本金取崩額		0	0	149	0	△149	
翌年度繰越収支差額		△3,683	△4,071	△3,820	△5,026	△1,207	

(参考)

事業活動収入計	2,960	2,937	2,996	3,104	+107
事業活動支出計	2,723	2,967	2,894	3,067	+172

(注 1) 百万円未満切捨てのため、合計金額および前年度比は一致しないことがあります。

(注 2) 平成 25 年度および平成 26 年度の金額は、改正後の学校法人会計基準の様式に組み替えて表示しています。



### (3) 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	25 年度末	26 年度末	27 年度末	28 年度末	前年度比
固定資産	7,540	7,512	8,242	9,073	+831
流動資産	3,458	3,200	3,385	2,430	△954
資産の部合計	10,999	10,712	11,627	11,504	△123
固定負債	1,142	971	1,818	1,567	△251
流動負債	1,714	1,630	1,595	1,685	+90
負債の部合計	2,857	2,601	3,414	3,253	△160
基本金	11,648	12,183	12,034	13,277	+1,242
繰越収支差額	△3,683	△4,071	△3,820	△5,026	△1,205
純資産の部合計	8,141	8,111	8,213	8,250	+37
負債及び純資産の部合計	10,999	10,712	11,627	11,504	△123

(注 1) 百万円未満切捨てのため、合計金額および前年度比は一致しないことがあります。

(注 2) 平成 25 年度および平成 26 年度の金額は、改正後の学校法人会計基準の様式に組み替えて表示しています。

## 3. 財務分析

### (1) 事業活動収支計算書関係比率 (参考資料：P24)

専門学校を主体とした運営形態のため、補助金比率が 2.0%と低く、学生生徒等納付金比率が 94.9%と高くなっています。

事業活動収支差額比率は、前年度比 2.2%減の 1.2%となりました。札幌保健医療大学は完成年度であるため私学助成を受けておりませんが、法人全体の事業活動収支差額比率はプラス計上となっており、健全な状態が保たれています。

### (2) 貸借対照表関係比率 (参考資料：P24)

平成 29 年 4 月に開設した札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科の専用棟となる 5 号館の建設および札幌保健医療大学 1 号館から 4 号館までの改修工事などを自己資金で賄ったため、固定長期適合率および固定資産構成比率が増加し、流動比率が前年度比 68.0%減の 144.2%になりました。

なお、純資産構成比率は 71.7%と 50%を大きく上回っており、流動比率も減少したものの 144.2%と 100%を超える比率となっています。財務の健全性を判断する各比率においては、概ね適正な水準を維持しています。

事業活動収支計算書関係比率（法人全体）

（単位：％）

比率		算式	25年度	26年度	27年度	28年度	前年度比
事業活動収支差額比率 （帰属収支差額比率）	△	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	8.0	-1.0	3.4	1.2	△2.2
経常収支差額比率	△	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$			3.5	0.9	△2.6
学生生徒等納付金比率	～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	94.3	94.1	94.1	94.9	+0.9
補助金比率	△	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	2.2	3.0	3.0	2.0	△1.0
人件費比率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	53.1	52.8	53.9	53.8	△0.1
教育研究経費比率	△	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	26.3	27.4	29.1	31.2	+2.1
管理経費比率	▼	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	11.9	13.4	12.9	13.4	+0.5
基本金組入後収支比率 （消費収支比率）	▼	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	111.6	115.1	96.6	164.8	+68.1

活動区分資金収支計算書関係比率（法人全体）

（単位：％）

比率		算式	25年度	26年度	27年度	28年度	前年度比
教育活動資金収支差額比率	△	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$			16.1	15.4	△0.7

貸借対照表関係比率（法人全体）

（単位：％）

比率		算式	25年度	26年度	27年度	28年度	前年度比
純資産構成比率 （自己資金構成比率）	△	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	74.0	75.7	70.6	71.7	+1.1
基本金比率	△	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	91.0	92.8	87.1	89.3	+2.2
固定長期適合率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}+\text{固定負債}}$	81.2	82.7	82.2	92.4	+10.2
固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	68.6	70.1	70.9	78.9	+8.0
流動資産構成比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	31.4	29.9	29.1	21.1	△8.0
流動比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	201.7	196.3	212.2	144.2	△68.0
負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	35.1	32.1	41.6	39.4	△2.2
積立率	△	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$			58.5	40.2	△18.3

（注1）平成25年度および平成26年度については、改正後の学校法人会計基準の様式に組み替えて計算した財務比率を表示しています（新設された比率を除く）。

（注2）比率名称の括弧書きは、学校法人会計基準改正前の比率名称です。

（注3）比率： △ 高い値が良い ▼ 低い値が良い ～ どちらともいえない